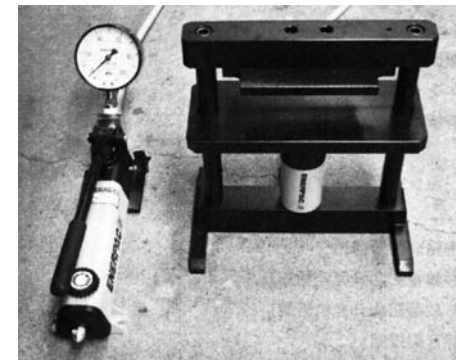


切り取ってご利用ください

特別企画・ワークショップ「発見&体験!! 版画の魅力」 ～あーとネット・とちぎオリジナル<版画用卓上油圧式プレス機>大公開～

版画の世界に親しむためのワークショップを開催します。
このワークショップでは、現在展示している版画作品を鑑賞した後、県内の美術館関係者と教育関係者でつくる「美術鑑賞教育ネットワークとちぎ(あーとネット・とちぎ)」が開発した、オリジナル版画用卓上油圧式プレス機を使って、実際に木口木版画を刷る体験をします。
今後、各方面で活用が期待されるプレス機の公開に併せて、「版画を刷る」という制作の過程を体験することで、版画の鑑賞をより深める絶好の機会です。ぜひ、ご参加ください。



「あーとネット・とちぎオリジナル版画用卓上油圧式プレス機」
このプレス機は、木口木版画家の柄澤 齊氏の助言を受けながら、あーとネット・とちぎのメンバーが開発・製作しました。

と き：3月19日(土) 午後1時30分～3時
講 師：あーとネット・とちぎの皆さん
会 場：美術館エントランスホールおよび展示室
参 加 料：美術館の入館料のみで参加可(入館料：一般…700(300)円、大学・高校生…500(200)円、小中学生…無料) ※()内は市民割引券を利用した際の料金です。
定 員：20名(先着順)
参加方法：美術館へ電話で申し込む

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO
小杉放菴記念日光美術館

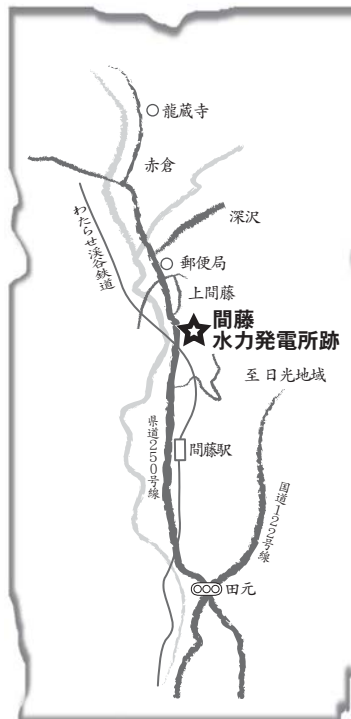
日光市の文化財 ④④

間藤水力発電所跡



【種別】 史跡
【所在】 日光市足尾町上間藤
昭和53年3月30日旧足尾町指定
わたらせ渓谷鐵道間藤駅から北へ六〇〇mほど進むと、県道脇に直径約一mの鉄管が見えます。そこが今回ご紹介する間藤水力発電所跡です。

間藤水力発電所は、明治二三(一八九〇)年に完成した日本では初期の水力発電所です。電力は旧来の動力源であった蒸気機関に代わり、坑内電車などに利用され、銅山近代化の原動力となりました。開設時の出力は約二九八キロワットで、同時期の国内の水力発電所と比較しても、際立った出力規模でした。
現在、県道脇には発電用の水を導いていた鉄管の一部が残るのみですが、道路を挟んで反対側の松木川の岸には原動所のレンガ造りの基礎があります。渇水期には県道からも見ることが出来ます。
間藤水力発電所跡は、足尾銅山の近代化を知る上で重要な史跡です。足尾地域にお立ち寄りの際には、他の銅山関係の文化財と併せてぜひご覧ください。



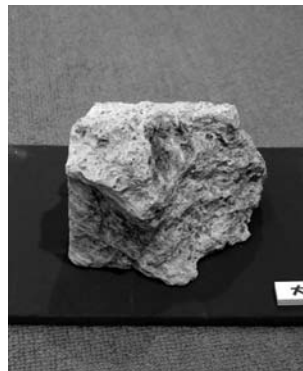
歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(市図書館隣) ☎22)6217
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)
休館日 毎週月曜日、祝日



企画展示資料紹介② 大谷石(緑色凝灰岩)

1,500万年前頃、栃木県の大部分は海の底でした。当時の地殻変動は活発で、激しい火山活動が起こり、たくさん溶岩や軽石、火山灰が海底に堆積しました。これらが変質して緑色になったものは、緑色凝灰岩(グリーンタフ)と呼ばれており、東北の日本海側などに広く分布しています。
大谷石は、この時代にできた流紋岩質の緑色凝灰岩で、主に軽石が固まってできたものです。耐火性にすぐれ、県内ではあちこちで大谷石造りの塀や倉を見ることが出来ます。



大谷石(緑色凝灰岩)

常設展示資料紹介⑦ 日光杉並木街道の緊急保存対策(案)

この対策(案)は、昭和49年に宇都宮大学教授であった鈴木丙馬博士が発表したもので、杉並木保護のため、行政が対策を速やかに講じるよう求めたものです。現在行われている並木敷に隣接する土地の公有地化などの対策は、すでにこの中に示されています。その後、計画的な杉並木保護施策が推進されていくこととなりました。
なお、鈴木博士は、生涯をかけて杉並木の研究や保護に取り組みました。杉並木の保護を考える上で欠くことのできない人物です。



日光杉並木街道の緊急保存対策(案)

◆移動博物館「岩石・鉱物の世界」
3月20日(日)まで

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

古代雛飾り賑わう大通り 岩崎節子
吊し雛婆ちゃんを着物蘇える 篠原芳子
ふきのとう春に見つけて持ち帰る 倉沢美江子
竹の音夜空に散らすどんどの火 櫻沢あき子
お雛様飾った時だけ孫はしやぎ 酒井喜麿
お雑煮が続ぎ餅腹もて余まし 白土武夫
雛飾り桃の開花を待ちわびる 選者 吟
俳句 選者 伊藤 清

俳句 選者 伊藤 清

牙ゆる夜の無限の空や冬銀河 徳本英子
冬来たり鍋物囲む夕食かな 渡辺ミチ子
万物を金色に染む初日の出 櫻澤総一
暁天に煌めき凍る星一つ 斎藤愛華
大杉に蓄ぎつしり春隣 池田三夫
大通り行き交う人の息白し 福田美代子
植田義雄

短歌 選者 阿久津伸一

四世代膳を囲みて乾杯の部屋に初日の光りあふるる 根立郷美
時を刻む音高まりて尚愛し命輝かせ シクラメン咲く
卒寿なる母は御節を作りたり腕も確かに味もたしかに 関根眞佐子
福笑い日向のような眼差しを集めて嬉し八十三歳の初春 狐塚昭子
風少しある枯庭を眺めつつポリユーム上げてカンツォーネ聞く 北崎 君
茶柱の立ちたる朝茶飲みながら縁起を担ぐ年になりたり 白土武夫
柚子風呂を好みし夫の今は亡く涙のにじむ顔を洗いぬ 植田義雄
村田トミ

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。
応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109